

処分問題  
RD現場

# 「停止命令出すべきだった」

## 検証委 県の対応の鈍さ批判

栗東市小野の産業廃棄物処理会社「RDエンジニアリング」の最終処分場問題で、県の対応について検証する委員会が25日、県庁であつた。同社が許可区域外で掘削・埋め立てをした1991年9月～92年2月の時点で「明確な(法令)違反。業務停止命令を検討すべきだった」などとする文案を示し、問題解決を先送りしてきた県の対応の鈍さを浮き彫りにした。来年3月までに報告書にまとめ、再発防止を図る。

委員会は、同社元社長が産業処理業の許可を得た79年から現在まで、県が適切に許可事務や権限の行使、住民らへの説明を行つたかどうか検証してきた。文案は91～97年に相次いだ悪臭の苦情への対応につ

いて「原因を積極的に究明しようとする姿勢が欠けていた」と批判。98年に処分場の面積や容量を拡大させる許可を与えたことに対しては「余剰廃棄物の全量撤

去などを行わせていけば、この時点で埋め立ての全容が明らかになった可能性が  
ある」と指摘した。

99年に硫化水素が発生した後、2001年に産業処分業(破碎)などの許可を更新した(こと)についても「同社は債務超過で審査は不適切だった」と指摘した。

スズ  
ン  
ホテル  
**山水**  
甲賀町  
88-5500

造林公社 特定調停始まる

産廃処分場県の対応不十分

高島市 灯油購入費助成

クリスマスロビーコンサート

多賀大社で縁起物準備進む

小学生が昔の遊び体験

立命館大図書館を開放

2007年12月26日 9時39分更新

## NHK滋賀のニュース

知事「怒」とうのような1年、

私学助成削減の撤回を要望

栗東市区画整理委員会で検討

産廃処分場の所有権放棄策有力

振り込め詐欺800万円被害

放火の消防署員起訴

彦根市長が運転免許

2007年12月26日 19時03分更新

栗東市にある産業廃棄物の最終処分場に有害物質が不法投棄されている問題で、これまでの行政の対応に問題がなかったか検討する県の委員会は「周辺住民から寄せられた苦情や情報への対応が不十分だった」とする検証結果をまとめました。この問題は、栗東市にある「オール・ディエンジニアリング」社の産業廃棄物の最終処分場で、有害物質が不法投棄され周囲の地下水にも汚染が生じているもので、学識経験者や弁護士でつくる検証委員会が廃棄物事業者を監督する県の対応について問題がなかったか検討しています。25日の委員会では、これまでの検証結果が、はじめて公表されました。この中では▼平成11年に処分場から硫化水素ガスが噴き出てこの問題が明らかになる前から周辺住民が異常な臭いについて苦情を届け出ていたにも関わらず、県が記録を残さなかったため改善命令が遅れたと指摘しています。また▼住民から元従業員の証言に基づいて、有害物質が入ったドラム缶が大量に埋められているという情報が寄せられた際にも、県は法律に基づいた事情聴取を事業者に対して行わないなど、周辺住民から寄せられた苦情や情報への対応が不十分だったと内容になっています。委員会では、今年度中にこの検証結果を報告書にまとめ県に提出することとしています。

栗東市で不法投棄が問題になっている産業廃棄物の最終処分場は、会社が破産したため現在、管財人が管理していますが来年3月末までに土地の所有権を放棄する方針で、今後誰が引き取って管理するのが課題となりそうです。栗東市にある「オール・ディエンジニアリング」社の最終処分場には、大量の有害物質が不法投棄され、周辺の地下水からは環境基準を大幅に上回る水銀などが検出されています。広さ4.8ヘクタールの処分場については、会社が破産したあと、破産管財人をつとめる弁護士が管理してきましたが、年間に数百万円の固定資産税などがかかるため、管財人は処分場の所有権を来年3月末までに放棄する方針を決めました。しかし処分場は、今のままでは利用価値がほとんど無く、栗東市や一部の住民は、県が引き取るよう要望しています。所有権が放棄された後、県は汚染された地下水を専用の施設で浄化するのにかかっている年間50万円ほどの電気代や水道代を負担する方針ですが、土地の引き取りについては「所有する目的がない」として消極的な姿勢を示しており、今後は処分場を誰が所有して管理していくかが課題となりそうです。